

2021年11月30日

旧東大北森研関係者各位

国立清華大學・ルンド大学・東京大学
北森武彦

志あるメンバーの募集（大学とベンチャー企業の研究者・技術者の募集）

過去に北森研の学生やスタッフだった皆さん、共同研究者やご協力頂いた皆さんに、このメールを配信しています。

2019年12月31日に東大を早期退職して、私は今、台湾の国立清華大學（台湾）を常勤本務として、スウェーデンのルンド大学と日本の東京大学ではパートタイムの教員・研究員として働いています。また、日本ではおなじみ IMT が創立 20 年を超えて存続していて、台湾では今年の六月に IMT-台湾を立ち上げました。

私の研究者人生の最後の挑戦として、大きな二つのプロジェクトが進行しています。一つは Single Cell Proteomics (SCP)、もう一つは、Desktop Chemical Plant (DTP)です。SCP には台湾の大型国費研究費が、そして DTP は日本と台湾と合計で年間数億円にのぼる超大型国際産学連携 R&D になっています。

現在、SCP と DTP 両プロジェクトで、研究者・技術者を募っています。特に、DTP は 2023 年に最初の小規模プラントの稼働、2025 年には大型プラントの稼働と、極めて具体的かつ現実的な目標の下に R&D を進めています。

詳細は後にして、この R&D 事業は日本と台湾の大学、大企業、ベンチャー企業が連携していて、特に日本ではダイセル社を核として、必ず成功に導く志で真剣勝負の体制が敷かれています。また台湾では TSMC 関連大企業の MIC が参画します。さらに、ここ国立清華大学では、産学連携の共同 R&D センター (JRDC) までこの 10 月に設置してくれ、8ヶ国 13 主要経済紙が報道してくれました。産業界からの期待も大きく、次の大きな産業展開が具体的に控えていて、数年間の短期的な職ではないと期待されます。

この大きなプロジェクトを成功させるために、現在、志ある研究者や技術者を求めています。働く場所は、国立清華大學、IMT-台湾、東大、IMT と、場所も職種も様々です。皆さんの事情や学位・資格に応じて相談に乗ります。おおよその職種と採用人数は下記にあげます。

様々な事情で、職業を変えてみたい人、大きな挑戦に挑んでみたい人、外国で働いてみたい人、人生を変えてみたい人、などなど、理由は問いません。私達とチャレンジしてくれる人を求めています。興味のある人は、すぐに下記に連絡を下さい。思い立ったら吉日です。

I. プロジェクト概要

A. Single Cell Proteomics

たった一つの細胞を、microfluidics+nanofluidics device で pL、fL スケールで実験操作し、質量分析計とインターフェースして細胞内タンパク質の網羅解析を実現させる。バイオ医学分野の夢の分析装置。国立清華大学、ルンド大学、東大の三ヶ国三大学国際共同研究。台湾最大の研究支援プログラム SUMMIT に採択中。

B. Desktop Chemical Plant

microfluidics の微小空間の時空間均一性を最大限に発揮させて化学プロセスを精密に制御し、100 枚、1000 枚、10,000 万枚のデバイスを直列並列に繋げた超並列大規模システムで、トン/年の生産量をも実現する。卓上化学工場 DTP を 5 年以内に実用化する。

II. 募集要項

1) 勤務場所(募集人数)

台湾：国立清華大學・Joint R&D Center (研究者・技術者 2-3 名)

IMT-台湾社 (国立清華大学内) (技術者 1-2 名)

いずれも新竹市

日本：東京大学・ナノマイクロ多機能デバイス連携研究機構 (研究者・技術者 2-3 名)

IMT 社 (1-2 名)

いずれも新川崎

コロナの影響で、台湾雇用の場合も当面は新川崎の東大・IMT 内で勤務の予定

2) 職種

SCP：microfluidics/nanofluidics の高度な研究。主としてデバイス研究。勤務場所は国立清華大學 (1-2 名)

DTP：化学合成デバイスの研究開発 (東大・IMT 社)

超並列化の技術開発 (国立清華大・IMT-台湾社)

3) 待遇等

個別に相談。

4)任期

いずれのプロジェクトも 2025 あるいは 2026 年までだけど、その後の展開は大いにあり、ダイセル社等の連携企業への就職の道もあり。また、研究者は業績次第でアカデミアのポストの可能性も大いにある。

5)応募方法等

急を要する募集で、なおかつ応募期限は無いので、応募があり次第、順次、個別に対応します。着任時期についても、可能な限り早い時期を希望。問い合わせも含めて、まずは、kitamori@icl.t.tu-tokyo.ac.jp に連絡を下さい。